

31【P2】 I -292

天然に自生するメシマコブの高分子成分の解析

○清原 寛章^{1,2}, 松本 司^{1,2}, 山田 陽城^{1,2}, 高橋 宏之³, 平山 秀樹³, 重本 桂³(¹北里大・北里生命研,²北里研・東洋医学総研,³日本生薬(株))

【目的】メシマコブ [*Phellinus linteus* (Berk. et Curt.) Teng] はタバコウロコタケ科のキノコで、培養菌糸体の熱水抽出エキスが臨床的に胃がん患者などの QOL を向上させることなどが報告されている。メシマコブ培養菌体の多糖-タンパク複合体について抗腫瘍活性などの実験的検討が行われているが、自生メシマコブの高分子成分についての検討は多くはなされていない。本研究では天然に自生するメシマコブ熱水抽出エキス中の高分子成分について検討を試みた。

【結果および考察】天然に自生したメシマコブ子実体の熱水抽出エキスについて MeOH 還流、水抽出、アルカリ抽出、EtOH 沈殿および透析を行った結果、水溶性高分子画分 (Fr. D) および水不溶性高分子画分 (Fr. I) が各々約 14% と 20% の収率で得られた。Fr. I は大部分が Glc から構成されていたが、Fr. D は Glc, Gal, Man を主構成糖として 6 結合 Gal や 3 結合 Glc などから構成される分子量約 3 万～1 万の高分子成分を主として含んでいた。さらに、Fr. D についてセタブロン分画沈殿法により分画した結果、中酸性 (Fr. D-2) および弱酸性多糖画分 (Fr. D-3) が主要画分として得られた。Fr. D-2 および Fr. D-3 は各々約 2-3 万および 1 万の分子量の多糖成分を主として含んでおり、Fr. D-2 では Man, Gal, Glc および GlcA を、また Fr. D-3 では Glc および Man を主構成糖としていることが示唆された。がん化学療法では腸管免疫系の破綻が起こることが報告されていることから、熱水抽出エキスおよびこれらの高分子分画画分の腸管免疫系に対する賦活化作用についても報告する予定。